

平成 2 5 年千葉市教育委員会会議
第 1 1 回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成25年千葉市教育委員会会議第11回定例会会議録

日時 平成25年11月20日（水）

午後2時00分開会

午後4時05分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委	員	長	和田	麻理
	委		員	篠原	ともえ
	委		員	内山	英夫
	委		員	中野	義澄
	委		員	明石	要一
	教	育	長	志村	修

出席職員	教	育	次	長	田辺	裕雄	保	健	体	育	課	長	津野	政彦													
	教	育	総	務	部	長	竹川	幸夫	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	真田	清貴									
	学	校	教	育	部	長	磯野	和美	養	護	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	山本	雅司							
	生	涯	学	習	部	長	原	誠司	生	涯	学	習	振	興	課	長	松戸	利一									
	総	務	課	長	石野	隆史	中	央	図	書	館	長	橘	高俊													
	企	画	課	長	大崎	賢一	生	涯	学	習	振	興	課	文	化	財	保	護	室	長	横田	正美					
	学	校	財	務	課	長	山田	輝夫	学	校	施	設	課	学	校	耐	震	化	担	当	課	長	森	薫			
	学	校	施	設	課	長	小野	正嗣	生	涯	学	習	振	興	課	科	学	教	育	推	進	担	当	課	長	遠藤	悟
	学	事	課	長	小川	彰	総	務	課	総	括	主	幹	南	久志												
	教	職	員	課	長	伊藤	剛	生	涯	学	習	振	興	課	主	幹	塚越	達雄									
	指	導	課	長	山本	幸人	学	事	課	長	補	佐	半澤	仁司													

書	記	総	務	課	長	補	佐	山本	春樹	総	務	課	主	任	主	事	佐久間	暁子
		総	務	課	総	務	係	長	渡邊	実	総	務	課	主	事	荒井	博行	
		総	務	課	主	任	主	事	藤井	拓也								

- 1 開会
和田委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
和田委員長より篠原委員を指名
- 4 会期の決定
平成25年11月20日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成25年第7回定例会会議録及び第3回臨時会会議録を全委員異議なく承認
- 7 議事の概要
 - (1) 非公開事項の決定
議案第35号及び議案第36号を非公開審議とする旨決定
 - (2) 報告事項
報告事項(1) 平成26年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について
教職員課長より報告があった。
報告事項(2) 平成25年度千葉市中学校音楽発表会について
指導課長より報告があった。
報告事項(3) 平成25年度千葉市中学校生徒会交流会について
指導課長より報告があった。
報告事項(4) 適応指導教室等通級生徒の職場体験（インターンシップ）について
教育センター所長より報告があった。
報告事項(5) 平成25年度第1回長柄ジョイントキャンプ及びジョイントフェスタの開催について
教育センター所長より報告があった。
報告事項(6) 平成25年度長柄ハッピーキャンプについて
養護教育センター所長より報告があった。
報告事項(7) 千葉市科学フェスタ2013メインイベントの開催について
生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。
報告事項(8) 第58回千葉市社会教育功労者顕彰について

生涯学習振興課長より報告があった。

報告事項(9) まなびフェスタ2013の開催について

生涯学習振興課長より報告があった。

報告事項(10) 加曽利貝塚オリジナルキャラクターの募集と地元の盛り上げについて

生涯学習振興課文化財保護室長より報告があった。

(3) 臨時代理報告

報告第2号 県費負担教職員の人事について

教職員課長より報告があった。

(4) 議決事項

議案第34号 平成25年度末及び平成26年度公立学校職員人事異動方針について

教職員課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第35号 平成25年度補正予算について

学校施設課学校耐震化担当課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第36号 千葉市生涯学習センター設置管理条例等の一部改正について

生涯学習振興課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

(5) 発言の要旨

報告事項(1) 平成26年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について

和田委員長 教職員課長、報告をお願いします。

教職員課長 報告事項(1)「平成26年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について」、報告します。

8月17日、18日、19日に、中学校・中高共通・高等学校・特別支援学校・養護教諭を、同じく8月23日、24日、25日には小学校の志願者を対象に二次選考を実施しました。

結果通知については、本人宛てに10月15日に発送し、県教育委員会のホームページにおいても、合格者の受験番号を掲載しました。

二次の合格状況についてですが、全体で1,807人が合格し、倍率では4.27倍でした。これは、昨年度の4.17倍よりも0.1ポイント高くなっています。個々の学校種や教科ごとの合格者数、あるいは倍率については、資料の通りです。

最後になりますが、本市では、来年度小・中・特別支援学校合わせて約180人前後の採用を予定しています。一人でも多くの優秀な人材を確保できるように、今後も努力していきたいと考えています。

内 山 委 員 この特別支援学校の学生はどのような資格を持っているのでしょうか。

教職員課長 特別支援学校の資格等については、知的・情緒、さらに肢体不自由等の様々な資格、職種により、派遣される学校等も違ってきます。

和田委員長 私から一つ伺いたいのですが、女性管理職を積極的に登用しようということなどもあり、若い世代にも育ててほしいと思うのですが、女性の志願状況、及び合格者の割合はわかりますか。

教職員課長 合格者の数値を述べます。

本年度の男女比については、全体では男性が817人に対して、女性が990人です。職種、学校種ごとに述べますと、小学校では325人に対して、女性が506人、中・高においては、男性450人に対して、女性が331人、特別支援学校においては、男性42人に対して、女性が110人、養護教諭に関しては、男性0人、女性43人となっています。

和田委員長 これは年々増えてきているのか、減ってきているのか、それほど割合は変わっていないのか、そのようなことはわかりますか。

教職員課長 大きな変動は、ここ数年見られません。やはり小学校では、女性のほうがかなり割合が多いという状況です。

和田委員長 わかりました。高い志を持って、女性にも管理職を目指していただきたいと思います。

報告事項(2) 平成25年度千葉市中学校音楽発表会について

和田委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 報告事項(2)「平成25年度千葉市中学校音楽発表会について」、報告します。

10月31日、11月1日に、千葉市民会館において開催されました。

目的ですが、日常の学習成果の発表と相互の鑑賞によって、音楽学習への意欲と関心を高め、音楽教育の振興と向上を図るというものです。今年で45回目を迎えました。

今年度は、市内の全市立中学校56校と市立養護学校の計57

校、2,087人の生徒が2日間にわたり、日頃の音楽学習の成果を発表しました。その模様を30秒ほどご覧ください。

発表の種目は、合唱、アンサンブル、合奏で、音楽の授業や放課後の時間を活用し、発表会の出場を目指して、仲間と心を一つにして取り組んできた成果を披露しました。発表のグループは、学級単位が41、学年単位が7、学校単位で2、クラブ活動4、また有志3という内訳です。

吹奏学部の演奏による全員合唱は、中学生と音楽主任に観客も加わり、全員の歌声が素晴らしいハーモニーをつくり、会場を響かせていました。

事後の取り組みとして、参加生徒全員による相互評価を行い、得点の上位校にナイスハーモニー賞を授与しましたが、本年度は12校がナイスハーモニー賞に選ばれています。

演奏だけではなく、主体的な鑑賞を通して、音楽に対する感性を豊かにし、情操教育の一環として、今後も一層の充実を図っていききたいと思います。

篠原委員 私はBグループの発表を聞きましたが、とてもすばらしい合唱でした。先生の指導の仕方によっても、大分歌い方が違うのではないかということも少し感じました。

もう一つ、全員合唱の「千葉市歌」と「心の飛行船」は、通常の音楽の授業のときには教えているのでしょうか。最後の「吾が千葉市」だけが、とても大きくて、ほかのところは余り聞こえてこなかったもので、どのように指導しているのかが気になりました。

指導課長 「千葉市歌」については、昭和4年に作られた古い歌で、あまり馴染みがないという面があります。

各学校においては、この音楽発表会に参加するグループは練習をしますが、そのほかのグループについては、毎日歌っているという歌ではないので、練習はほとんどしていないという状況です。

ただ、色々な行事等で慣れ親しむような取り組みを進めているところですが、まだうまく歌えていないという状況です。

ですから千葉市民を含めて、小・中学校でも慣れ親しむように心がけていかなければいけないと考えています。

和田委員長 例えば、成人を祝う会の式典のときにも、「千葉市歌」を歌ってはどうかというようなお話が去年、明石委員からもありましたので、今後、中学生、高校生ともせめて「吾が千葉市」以外の

ところを少し口ずさめるように、学校で指導するような方向で考えていただければと思います。よろしくお願いします。

内 山 委 員 中学校ごとに学級などが歌を競い、その中で優秀なグループを派遣しますね。直接関連しないかもしれませんが、たまたま私の住んでいる学区の緑町中学校が小学6年生を招いて、一緒に歌うというコンクールを昨年、見学しました。そのように各中学校のコンクールに小学生が出向いて一緒に歌うということについて、市全体での実施状況はどうでしょうか。

指 導 課 長 それぞれの中学校が市民会館など、様々な大きな会場を借りて、中学校ごとに音楽発表会、合唱コンクールを開催しています。そこに小学生を招いて、一緒に聞いてもらうという取組みがあるということは把握していますが、何校行っているかまでは、わかりません。

内 山 委 員 小中連携の関連で有効な手段ではないかと思いますので、ご検討よろしくお願いします。

和 田 委 員 長 非常に自然な形での小中連携という、まさにいい見本だと思っていますので、無理のない範囲で、それぞれの学区でも推進していただきたいと私も思います。

明 石 委 員 確認ですが、56校は全て校内で合唱コンクールを開催しているのですね。

指 導 課 長 はい。

明 石 委 員 時間数に限りがある中で、全ての学校で開催していることは、非常に評価したいと思っています。

そこで、私の素人考えですが、各学校で2年生で優秀なクラスも、3年生には負けるというのは、3年生男子たちが、大体声変わりが終わるので、ハーモニーしやすく、2年生の男子たちは、まだ子どものような声が残ри、ハーモニーしにくいというのが一つあると思います。

さらに、3年生のクラスで、男子たちはもう3年やってきたから、今度はやめておこうと言うけれども、女子のグループが、「頼む。最後だから頑張ろう」と言って、頑張るから、大体3年生のクラスがトップになるのだと思います。

そのような中学生の理解は難しいのですが、合唱コンクールを通して、中学生の在り様を理解する一つのヒントになり得ると思います。

2つ目は、学級経営の力が一目でわかるので、校長先生はぜひ

この合唱コンクールを見てほしいです。非常に声の出る学級というのは、先生と生徒のまとまりができるというのが、授業よりも音楽発表会でもっとわかりやすいので、非常に音楽発表会は良いと思っています。

3つ目は、歌声のする学校は不登校といじめの数が少ないのかということも調べてみたいです。声を出すというチャンスが物すごく今少ないので、小学生や中学生の歌声のする学校と、11月に菊の大輪がある学校は、不登校といじめの数がとても少ないです。

そういうことも経験則であるので、千葉市は45年間も中学校音楽発表会を開催しているので、自信を持ってもらいたいし、また自慢をしたいと思っています。

和田委員長 校内の合唱コンクールは、学校の体育館でやる学校もあれば、どこか会場を借りて大規模にやる学校もありますね。

指導課長 多くの学校では、体育館よりも音響設備の整った京葉銀行文化プラザのような会場を確保して行っています。

和田委員長 子どもたちの舞台度胸もつき、大変良いことです。

篠原委員 私はいつも稲毛中学校の合唱コンクールのPTAの合唱に出演させていただいているので、いつも聞かせていただくのですが、やはり1年生のクラスのトップと、2年生のクラスのトップと、必ず学年ごとに最優秀賞を決めています。その中で、やはり3年生は学校代表を目指しているようなので、ちょっと黄色めの声の1年生と、なかなか声が合わない2年生に比べ、やはりいい声を出していました。

いつも生徒のコメントを聞きますが、必ず「夏までは女子が一生懸命引っ張っていても、なかなか男子がついてこなくてどうなるかと思いました」と、最後に「みんなで一生懸命頑張りました」というコメントがついています。そのコメントもなかなか良いと思いました。

和田委員長 やはり歌声と菊の大輪がキーワードですね。

私も音楽発表会へ行きましたが、それぞれの学校で頑張ってきた成果があらわれているということと、とても特色のある選曲と、パフォーマンスをしてくれ、良い成果を発表してくれたと感じました。ありがとうございました。

内山委員 私も地元の合唱コンクールを見て思ったのですが、生徒たちもそれぞれまた指揮者や伴奏の優秀者を褒めていますね。良い意

味で優秀な子を育てる手段になると思いますね。

和田委員長 来年度以降も、またご案内をいただき、ぜひ私たちも伺いたいと思います。よろしくお願いします。

報告事項(3) 平成25年度千葉市中学校生徒会交流会について

和田委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 報告事項(3)「平成25年度千葉市中学校生徒会交流会について」、報告します。

11月8日に、千葉市総合保健医療センターにおいて実施されました。

目的については、「各校の特色ある生徒会活動や運営上の課題などについての情報交換や話し合いを通して、学校同士の交流を深めるとともに、自校の生徒会活動を充実・発展させるための機会とする」ということです。

本交流会には、各中学校の生徒会長52人が集まり、各校の特色ある生徒会活動の紹介に始まり、子ども議会代表校の報告・提案をもとに話し合いが行われました。参加した生徒は、後期の生徒会役員が中心であり、2年生が50人、1年生が1人、子ども議会の代表校から3年生が1人という構成で行われました。

昨年度は、「生徒会を活性化するために一解決策を話し合おう」というテーマを設定し、生徒会役員の交流を深めましたが、今年度は、子ども議会との連携を強化し、近隣校同士の交流を深めることを意識して、「近隣校との交流を深める生徒会活動—子ども議会での提案を通して」という共通のテーマのもと、行政区を中心とした11のグループに分かれ、分科会を実施しました。

初めに中学生が進行を務めた開会行事ですが、市長から「自分たちの居場所を良くするスタートとして、まず学校を良くするところから始めてほしい。また大人の視点で気づかない意見をもらいたい」といった趣旨の挨拶をいただきました。さらに、代表生徒による本交流会の趣旨説明の後、行政区ごとに分かれ、各校の特色ある取組みの紹介と、7月30日に開催された子ども議会の報告と提案が行われました。

その後、さらに小グループに分かれて、「近隣校の生徒会とどのような交流ができるか」という課題について意見交換が行われました。

全体会では、各グループで意欲的に話し合った内容が具体的に報告されました。

「生徒会だよりや生徒会通信の交換、学校ホームページの活用により、各学校の活動の様子を紹介し合いながら、課題についても共有をする」、「子ども議会代表校の提案内容を、自分たちの学校でも実践してみる」、「意見箱の設置やボランティア活動について、各学校のよい取組みを取り入れていく」といった、どの学校でも交流できる意見から、「花見川の様子について、ちばレポを活用して報告する」、「土気駅でのボランティア活動を連携して行う」、「幕張メッセの美化を通じて美浜区の魅力を発信する」などの地域性豊かな意見まで、多様な発想が見受けられました。いずれにしても、各学校での十分な話し合いや準備が必要とされますが、一つでも多くの実践につながることを期待しています。

本交流会が、これからも他校の取組みを参考にできるよう、今後の生徒会活動に取り入れたいことや、参加しての感想を記入した「千葉市中学校生徒会交流会に参加して」をイントラネット版のキャビネットに掲載する予定です。

今年度は4回目の取組みとなりましたが、各校の生徒会活動の交流を通して、さらに具体的な成果が上がるよう実行委員会組織による運営や、より学校現場に即した話し合いのテーマの設定など、内容の改善に努めるとともに、活発な議論が進むよう話し合いの形態などについて、工夫を凝らしていきたいと思います。

内 山 委 員 分科会で一つ気になったのですが、議長役を担当する生徒が、なかなか進行しにくい状況でした。中学生なので、もう少し活発に意見が出るかと思ったのですが、しばらくの間意見が出なくて、指名してやっと発言がありました。

その後、だんだん和やかになって意見が出るようになりましたが、先生方や周囲の方が見ていることを、どうしても意識してしまうのでしょうか。そのような環境も含め、もう少し意見が活発になるような方法を考えてもらえればと思います。

和 田 委 員 長 私も同様な意見を持ちました。生徒会長という、学校を代表するような立場の中学生が集まってきているのに、想像していた以上にそれほど活気のある意見交換がなされなかったと感じましたが、行かれたお二人は、いかがですか。

篠 原 委 員 私も本当にそう思いました。ただし、自分たちがつくってきた自己アピールや、中学校のアピール紹介はとても素晴らしいと思いました。そしてまた、最後に前で発表された子どもたちのま

とめた内容も、とてもすばらしいと思いました。

しかし、何か討議になっていなかったような感じがしました。

和田委員長 そうですね。報告を受けているというだけで、それに対して質問する場がないのだろうと感じました。

明石委員 私もそう思いました。テーマは旧役員が子ども議会で発表したことであり、多分あまり引き継ぎのないまま、新役員が参加するように言われて来て、戸惑いがあったのではないかということも差し引かなくてはいけないかという感じはします。

それでも、篠原委員がおっしゃるように、最後のまとめの発表は、非常に上手でした。私は急に会って、みんな緊張しているのを何とか引き出したという様子を、あるグループの最初から最後までビデオで撮り、なぜあそこまでできたかというプロセスを残してほしいです。担当の方は、若い先生が非常に増えていて、指導方法を十分にわかっていないことも考えられるので、そうして教育委員会の指導課が作成したビデオを見てもらい、勘どころを押さえなければ、緊張した生徒達も、何か発言をしてくれるのではないかと思います。

今日の話にもありましたが、来年も200人近い新規採用教員がいるので、何とか指導方法を考えてもらいたいのが一点。

2点目は、56校の中学校の中で、会長、副委員長、書記などの役員に立候補したか、推薦されたかという問いに、生徒会長に立候補した方は、8人くらいという指導課の配布した資料が非常に貴重だと思いました。

要するに、チャレンジして痛手を負わなくて、周りから押されて信任投票で決定しては、やわな人間しか育たないと思います。お願いしたいのは、あの資料を担当の先生方が、持って帰ったと思うので、各学校内で配ってほしいです。56校はこのような実情なので、次年度はせめて立候補者を16人くらいの倍に増やしましょうという意見が出てくると、交流会が非常に進化するかと思いました。本当に生徒たちは鍛えれば伸びるという感じがしました。

和田委員長 先ほど明石委員からお話があった資料ですが、その中でも、やはり学校の先生から声をかけられたので立候補したという回答が割合的には多かったので、なかなか自分から生徒会活動に自主的に参加しようと思う生徒が出てこないのが、今の子どもたちなのかという感想を持ちました。

指導課長 貴重な意見をありがとうございます。

なかなか子どもたちが打ち解けないというところが、課題であると感じました。子ども議会についても、やはり初対面の生徒たちがグループごとに話をするという場面は多かったのですが、挨拶に15分ほど時間をとって和やかにしましたが、今回は半日という短い時間なので、なかなかそういう時間がとれませんでした。時間がとれたら、一緒にラジオ体操をやったり、トランプをやったり、自己紹介タイムなどのようなことを行くと、さらに良いかと考えます。短い時間で、心が通わせるようなことを、来年はちょっと考えてみたいと思っています。

それから周りに、生徒会担当の先生方が列で並んでいると、確かに萎縮します。実は、その先生方も別室に集めて、先生方だけで分科会を開き、交流をさせようということも考えたのですが、今回、急に会場を一部屋しか使えないということになり、実施できませんでした。次年度は、先生同士の交流を図ることも実施したいとも考えています。

志村教育長 初めて会って、あそこまでしゃべればむしろ素晴らしいと思います。

最後に話したように、本交流会をきっかけにして、ぜひ区単位で集まる機会を、もっと持ってもらいたいと思います。4回目で、ようやくここまで内容を絞り込んできたことはいいことだと思いますので、できれば本当は宿泊し、じっくり交流させたいです。

明石委員 補足ですが、生徒会通信の交換や、学校ホームページの活用をしようという、横の連携ができたのが非常にうれしく思います。

単独でそれぞれ参加して、すぐ帰って、またタコつぼに入るのが日本の習性なのだけども、このような形で横のつながりができたことは、事務方がうまく近隣の中学生同士を集めるというセッティングをしてくれたおかげだと思います。会場では緊張していましたが、隣の学校であったり、同じ区内でも遠いなどの地理感覚がわかれば良いと思っています。

内山委員 大変良い試みなので、ぜひいろいろ研究してより良い方向に持っていきたいと思います。教育長のお話でもありましたが、ぜひ盛り上げて、生徒たちに1泊2日という機会をできれば与えたいと思います。よろしくお願いいたします。

和田委員長 私たちが、あれこれ言うまでもなく、指導課でもいろいろと考えているということもよくわかりましたので、今後ともどうぞ

よろしくお願ひします。

報告事項(4) 適応指導教室等通級生徒の職場体験（インターンシップ）について

和田委員長 教育センター所長、報告をお願いします。

教育センター所長 報告事項(4)「適応指導教室等通級生徒の職場体験（インターンシップ）について」、報告します。

千葉市とイオンの包括提携協定事業である職場体験です。

11月11日（月）から13日（水）まで3日間、イオンマリニピア店にて不登校児童生徒の職場体験が行われました。予定した10人を大きく超える17人の、ライトポートと教育センターのグループカウンセリング活動の子どもたちが自ら希望し、職場体験を行いました。内訳は、中学1年生が5人、中学2年生が7人、中学3年生が5人です。

子どもたちは、通常の売り場体験だけでなく、姿勢や挨拶など接客の基本対応を学び、働くことの大変さと喜びを体験しました。また、その活動は、より良い人間関係を築くための学びの場ともなりました。校長先生を初め、担任の先生が参観した学校もあり、子どもたちにとって自信につながる活動となりました。

中野委員 目的が「本格的に学校復帰を果たしたり」というのがありますが、今年に限らず、今までの例で、何人くらいが実際に学校に復帰できたという具体的なデータはわかりますか。

教育センター所長 職場体験で復帰した事例の数はわかりませんが、ライトポートと、教育センターのグループカウンセリング活動に通う子どもたち全体で言いますと、自分の学校に戻れる本当の完全復帰は10%くらいです。少しは通える、部分復帰の割合はもっと高くなります。

篠原委員 午後の活動「どんな店舗をつくってみたいかを考える」とありますが、この店舗というのはどんなことが挙がっていたかおわかりになりますか。

教育センター所長 これは、イオンが組んだプログラムで、子どもたちが店舗の中を見て、これならばこういうようにこんな店ができればいいのではないかと、こういうアイデアもあるのではないかとということ子どもたちの中から掘り出すという活動です。

私は、その場にちょうどいましたが、イオンもここから少しヒントを得ているのではないかといいところもありました。子どもたちは子どもたちで売るものをもう少し安くしてほしい、また安

くてこういうものがあるといいなど結構、真面目な、実現性のある内容を発表していました。

和田委員長 そのような子どもたちからの意見が実際に採用されたというようなフィードバックがあり、イオンがこっそり教えてくれるといいですね。

教育センター所長 それについては、今度12月20日にイオンモール幕張新都心がグランドオープンしますが、イオンの方は、本気かどうかわかりませんが、ぜひその中で使いたいという意見もありました。

明石委員 先ほどの中野委員の質問にありましたが、兵庫県では、県内約360校の中学2年生を対象に、6月と11月を中心とした連続した5日間、職場体験や福祉体験などの活動をする「トライやる・ウィーク」を実施し、年間約2億円の費用をかけています。その中で不登校の生徒には、生徒個々の実態に即したさまざまな支援・指導を行い、参加させたところ、実施後に登校率の上昇した生徒が3分の1以上という実績がありました。

お金の問題もありますが、江戸川区でも5日間実施していますし、兵庫県は事業費の半分となる費用を県内各市に交付していますので、千葉市も5日間実施できないかと思います。

3日間ではありますが、今の教育センター所長の話では、10%という数字も非常に良いと思います。そのような数字を残していくということが大事かと思います。

さらに、先日研究報告会へ行った川戸中学校でも実施していましたが、千葉市内の中学校では3日間実施しているので、各学校でも不登校の生徒の書いたコメントがライトポートの適応指導教室との連携がうまくいってれば参考になると思います。

また、平成23年にイオンとの包括提携協定を結んでいますね。非常に良いことなので、このことを、全市立学校の約180人の校長先生の中の何人が知っているかを調べてほしいです。このような良いことを、まず知っていただきたいです。包括提携協定の内容を知っていれば、いろいろ使えると思います。

中学2年生の職業体験は校長と担当の先生が知らない、本当に自分で悩んで、職場を探すことが非常に困るのです。

さらに、全市立中学校2年生の学年主任の何人が、どれだけ知っているかというデータを密かにとってみるとわかりやすいと思います。

次に、保護者とイオンリテールカンパニーが交わした誓約書と

というのは、どのような内容なのでしょうか。

不登校の問題や、プライバシーの問題など、そこで知り得たことをしゃべってはいけないなどの内容かと思います。特に I T 関係は、中学生のほうが先端をいきますから、非常にナーバスになっていますね。職場体験を増やすと、誓約書のありようというのは、大事なことだと思います。

教育センター所長 すみません。今日この誓約書の内容についての資料を持ってきましたので、今ここでは話すことはできません。

それから、各学校がどれくらい認識しているかについても、私は全市立学校の校長が知っているかと確信していますが、密かに実施したらどうなるかはわかりませんが、実施してみたいとは思いますが。

和田委員長 誓約書に関しては、明石委員のお話のように、包括提携協定を正式に結んでいるので、職場体験においても誓約書も交わしていると思いますが、例えば小さな商店や、小さな企業に伺う場合などの各中学校で実施している職場体験に関しては、こういった誓約書を恐らく交わしてないですね。

そうすると、今後、もし何かが起きたときに問題になってくることもあるかと思いますが、各中学校での職場体験でも、誓約書というほどの堅苦しいものではなくても、何か書面に残るようなものを交わしていくということは必要なことと思いますが、いかがでしょうか。

学校教育部長 各学校では、中学 1 年生から 3 年生まで学校全体で総合的な学習の時間で入る保険があり、60 円くらいで入れます。この間に事故があった場合や、お店のものを壊すなど何かをした場合には、全部補償されるということはあると思いますが、実際、事業主と具体的にどのような誓約書を交わしているかということについては、余り事例がないですね。

和田委員長 職場体験へ行ったことによって、そのお店のほかには漏らしてほしくないことも知り得ることがあるかと思いますので、やはり誓約書を交わすようなことも考えていかないといけないと思います。

明石委員 保護者とイオンが誓約書を交わしましたことは、非常にいいことなので、どちらからの提案なのかを教えてください。学校とイオンが誓約書を交わすことは何となくわかりやすいですが、保護者が入っているところは、非常に新鮮味があります。保護者

の要望が強かったのか、それとも様々な保護者がいることを考慮し、イオンから一筆ほしいと言ったのでしょうか。

教育センター所長 イオンです。会社には、やはりいろいろな制約もありますし、逆に子どもたちからしてみると不利益を起こしてしまうこともあり、両方あるということで、イオンからの提案です。

志村教育長 受け入れ側として、会社がやはり何かあったときに一定のチェックが必要なのでしょうかね。

和田委員長 今後の対応とともに、中学校の職場体験も含めて考えてもらえればと思います。

内山委員 このような民間企業の協力というのは、大変ありがたいことです。千葉市の教育委員会でいろんなことを行っていますが、協力してくれる団体も段々増えてきたような気がします。そのような範囲を広げてもらえればと思います。

和田委員長 参加人数は、昨年よりも増えているのかと思いますが。

教育センター所長 増えています。

和田委員長 全体の中での参加する生徒の割合は、どのくらいでしょうか。

教育センター所長 グループカウンセリング活動や、ライトポートに通級する全生徒の中では、その10分の1くらいになってしまいましたが、あくまでも本人の希望です。昨年10人に比べて今年17人と増えた要因は、口コミで伝わったのと、昨年参加し、今年も参加したいということの両方ありますので、今後は年々増えていくのではないかと思います。しかしイオンも、受け入れる側として、マリンピア店だけでは少々限界かと感じますので、私としては、イオンモール幕張新都心を期待しています。

中野委員 私の経営する老人ホームでも3人の中学生を受け入れました。特に誓約書などは交わさなかったのですが、こちらで一応計画を立て、それに則って体験してもらいました。一緒に合唱レクをしたり、食事も1回は一緒に食べることにしましたら、年長者の人たちも非常に喜んでいました。老人ホームも選択肢の一つとして、ぜひ増やしていただければと思います。

和田委員長 中学校の職場体験まで話題が広がりましたが、それも含めて、今後考えていただければと思います。

報告事項(5) 平成25年度第1回長柄ジョイントキャンプ及びジョイントフェスタの開催について

和田委員長 教育センター所長、報告をお願いします。

教育センター所長 報告事項(5)「平成25年度第1回長柄ジョイントキャンプ及

びジョイントフェスタの開催について」、報告します。

教育センターと千葉市少年自然の家共催により、平成25年度第1回長柄ジョイントキャンプが、10月9日（水）から10月11日（金）の3日間実施されました。今年度が9年目の事業です。

このキャンプは、豊かな自然の中で、さまざまな体験活動を通して、不登校児童生徒の自主性・社会性を育み、学校生活への復帰の手助けとなることを目的としています。このキャンプのジョイントの意味は、心をつなぐ、教室をつなぐ、学校をつなぐということです。

今年度はライトポート、教育センターのグループカウンセリング活動に参加している児童生徒46人が参加し、うち小学生は1人でした。

子どもたちは、手づくりパンに合うおかずづくり、ネイチャーゲーム、キャンドルサービス、いろいろなプログラムに挑戦しました。その中で、今まで気づかなかった自分を発見し、新しい仲間と協力していくことの楽しさや大切さを、体験を通して学ぶことができました。

今回、教育委員の皆様方や教育次長など、多くの方々に参観していただき、子どもたちの励みになりました。ありがとうございました。

この貴重な体験をもとに、千葉市教育センターでは、12月10日、不登校児童生徒による発表会、ジョイントフェスタが行われます。この事業は、職場体験と同様にイオンの包括提携事業です。

イオンからは、参加する子どもたちに飲み物やお菓子や、巨大なクリスマスツリーをプレゼントしてくれるなどの予定になっています。センターからイオンへは、保護者への案内や会場の看板にイオンの名称を入れるなどの予定です。

発表は、各ライトポート、グループカウンセリング活動の施設ごとに行います。子どもたちは、劇やダンス、合奏など、今から発表の準備を始めています。もしもご都合がございましたら、教育委員の方々、ご参観よろしく願いいたします。

内 山 委 員 私もジョイントキャンプの最初の日に見学に行き、大変子どもたちが明るく、元気に参加していました。非常にプロフェッショナルな人の指導力により、非常にいい試みで、内容が充実して

いましたね。みんな明るく参加しているんだなと思い、ほっとしましたね。いい影響を与えたのではないかと思います。ありがとうございました。

篠原委員 私も内山委員と同じ日に行きましたが、本当にそうですね。あのように仲間意識を強めていく過程に感心しました。それこそ先程の生徒会交流会のときにも、同じような雰囲気をつくり、和んだら何かおもしろい意見が出てくるのではないかと思います。

あと、一緒に行かれた学事課長、ぜひ感想を一言お願いします。

学事課長 私も同じような意見を持ちました。なかなかコミュニケーションをすることが、難しい子どもが多いかと思いますが、その中でうまく人の心を溶けさせるような手法もあるということがわかりました。ありがとうございました。

和田委員長 続いて、私と一緒にの日に行った田辺教育次長も一言お願いします。

教育次長 私は、2日目のパンに合うおかずづくりに参加しました。到着したらちょうど火おこしをしている最中で、なかなか火がつかなくて、その後大変な量の煙が出て煙たかったことがありました。その時に皆さんに色々聞いてみたら、やはり普段ライトポートに通っているときは、余り笑顔がないそうですが、キャンプへ行ったら、子ども達皆の笑顔がいっぱいで、非常に楽しそうに活動していることが、非常に印象的でした。

さらに、グループというのは、シャッフルして、もう一回グループづくり直して、おかずづくりをしていましたが、新たな仲間であっても、ちゃんと意思疎通ができていて、結構積極性が見られました。火をおこすにしても、料理をつくるにしても、やはり普段にない、積極性というものがかなり出ていたということで、非常にすばらしい取り組みではないかなと感じました。

余談ですが、私は8月に教育委員会に異動して来て、現場をよく知らないため、このようなイベントや、学校現場、色々な教育関係施設も回っているところですが、現場では色々なことがわかってきて、現場を回るのは、本当に重要なことだと、今ひしひしと感じています。

和田委員長 ありがとうございました。

私は、次長と同様に、パンに合うおかずづくりの行程の中で、

あるグループに参加させていただいたのですが、やはり接している距離が、普段の施設見学のスタンスよりも近かったので、その中の数人が学校に行けなくなった理由や、学校の先生に対する自分の今の気持ち、友人関係を、初めて会った私に話してくれて良いのだろうかと思うようなことまで打ち明けてくれ、それがとても心に残りました。

やはり外から見るということではなく、このようなグループ活動のときに一緒に参加することで、少し子どもたちの力になれるようなこともあるのかと感じました。

明 石 委 員 参加者のデータが非常に興味深いと思います。中学３年生が２４人と一番多くて、中学２年生が１８人、中学１年生が３人ですよね。そうすると、ライトポートに通っているお子さんの母集団は、やはり中学１年生が一番少なく、キャンプ参加者数も少なく、中学３年生は、母集団のほぼ７割、８割が参加していると読めるのか。そのことを担当のセンターとして、このデータをどう解釈しているのでしょうか。

同じように、ライトポートの花見川は１０人で、緑が２人ですね。これも母集団の中で、緑は数が少ないから２人だけれども、参加率は５割なのか、花見川は１０人だけれども、参加率は２割なののでしょうか。そのようなことを説明してもらえると、この良いキャンプが口コミで伝わるのは、どの層かが、非常にわかりやすいので、その解釈があれば教えてほしいです。

教育センター所長 まず学年ですが、中学３年生が２４人とありますが、実は２月に第２回ジョイントキャンプを実施するのですけれども、これになると中学３年生がほとんど参加しなくなり、今度は中学２年生、中学１年生が急に多くなり、同数くらいになります。中学３年生は、この時期にちょうど行ける時期になるわけで、その口コミが下の学年に伝わり、２月の第２回には、中学２年生、中学１年生が増えているという傾向が毎年見られます。

それから、各ライトポートの参加人数の関係ですが、実はライトポート緑は、昨年第１回は参加者はいなかったのですが、だんだん参加者が増えてきている現状です。

それから、ライトポート花見川が一番全体数が多いので、参加者数が多いと解釈しています。大体、総数に対しての割合はほとんど変わらないと考えています。

明 石 委 員 中学３年生は、１０月頃までは自分の自信や、体力を高めた

いと思っているけれど、2月になると受験のことが気になり、落ち込んでいるのだと思います。

私は、それに対して、ライトポートに通っている子どもたちへのサポートを、臨床心理士や、スクールカウンセラーの方たちが、どのようにアドバイスしていくかということも含め、少しセンターで研究していただきたいと思います。

せっかくジョイントキャンプでこれだけパワーアップしても、また2月に落ち込んでしまっては元も子もないのではないのでしょうか。非常に良いことをしているので、参加者数が減るということは何を意味して、受験モードに入ってしまうと、彼らのメンタリティーがどれだけ下がるのか、それとも維持できるのかということを中心にセンターで研究されて報告されると、多くの子どもたちが助かると感じました。

和田委員長 もちろん個人差があることだとは思いますが、私に話してくれた中学3年生の生徒の話では、やはり高校に入るときをターニングポイントとして、そこからやり直していきたいと言ってくれました。子どもによって、色々な考え方があると思いますが、何らかの形で復帰してくれればいいと私は願っています。

それと、先ほどのそれぞれの割合に関して、ほかの資料にも言えることですが、全体の中のどのくらいが参加しているのかなどが表せるようであれば、今後、資料にその割合を、パーセンテージ、もしくは何割という数値で併記していただけるとイメージがつかみやすく、私達も余分な質問をしなくて済むかと思うので、表記をお願いします。

中野委員 初歩的な質問でいいでしょうか。色々なプログラムを企画・実施する方は、先生方ですか。それとも、こういうことを専門的に指導している方がこの施設にいて、利用者と触れ合いながら、実施してくれるのか、どちらなのでしょう。

教育センター所長 これは、少年自然の家と教育センターとの共催になっていますので、教育センターの指導員または指導主事が半分、それから少年自然の家に任せるのが半分としています。ネイチャーゲームも、教育センターからの提案を幾つか、少年自然の家から提案も幾つかと分けたり、それから、パンについては少年自然の家をお願いしていますが、おかずづくりについては、教育センターで考えるといったようなやり取りをしています。

報告事項(6) 平成25年度長柄ハッピーキャンプについて

和田委員長 養護教育センター所長、報告をお願いします。

養護教育センター所長 報告事項(6)「平成25年度長柄ハッピーキャンプについて」、報告します。

長柄ハッピーキャンプは、通常の学級に在籍するADHD、広汎性発達障害などのある小学生のための宿泊体験活動です。秋休み期間中の10月11日(金)から13日(日)の2泊3日で実施しています。

平成17年度から実施し、今年度で9回目となりました。また、養護教育センターの単独主催の事業から、LD等通級教室の設置校校長連絡会との共催事業となって、2年目となっています。

キャンプの目的は、発達障害等のある児童を対象に、集団生活を通して社会性を向上させ、通常の学級での適応力を高めることにあります。参加児童は、養護教育センターで行っている3・4年生のグループ活動の参加者18人のうち17人、LD等通級指導教室通級児童3・4年生の38人のうちの34人、合計51人の希望者による参加となっています。

主な活動内容は、ウォークラリー、カレーづくり、クライミングウォール、制作活動、キャンドルサービスなどですが、特に本年度は、3日目に子どもたちが企画運営した紙飛行機大会を実施することができました。

LD等通級教室設置校や参加児童在籍校の校長、担任等、29人の先生方にも視察・参観・お手伝いをいただき、無事終了しました。

成果は、それぞれのグループにおけるキャンプでの目標を明確にして、プログラムを作成した結果、全ての児童が活躍できる場を設けることができました。また、児童の興味・関心のある内容から、新たにプログラムを作成することによって、児童が集中して参加したり、進んでルールを守ろうとする姿が見られました。

また、今回初めて50人を超えたために、クライミングウォールや制作活動を少人数に分けて実施し、安全面や活動時間の面も含めて、より充実した活動になったと考えています。

今後も、参加人数の増加が見込まれるため、ボランティアの確保や参加人数の調整等が、課題になっていくと考えています。

今後もキャンプでの成果、特に子どもたちの自信を生かしつつ、グループ活動、また通級指導教室での指導の充実を、図りたいと考えています。

和田委員長 本当にご苦労さまでした。

明石委員 私も視察に行き、非常によくやっているということは実感できました。

意見として、この場面に、初任者研修をうまく導入するには、どうしたらいいかということを考えていましたが、この日程では土日は難しいから、金曜日だけなのか、さらに、こんないいことを夏休みもできないのかと考えていました。特に若い先生方は、発達障害の児童に対しても、教科指導をしなければならなくて、非常にお手上げなのですね。

今回行ってわかりましたが、51人いますと、発達障害といわれる児童でも、様々な児童がいるので、自分の学級の児童との比較もできますよね。

今回、担当の先生以外に、ある小学校の先生はボランティアで参加しているということは良いけれども、初任者研修においては、準必須化くらいの扱いにしてほしいと思います。このような場面で、本当の姿が見えるということがわかりますよね。発達障害の児童に対しては、たくさんしゃべっては良くないのですが、特別支援学校での指導経験のある先生がクライミングウォールのときに色々な絵を使って説明するという指導方法を初任者研修で学んでくれると、非常に貴重な体験になると思います。

校内研修も大事だけれども、このような様々な児童がいる中で、論より証拠で見てみると良いと思うので、検討していただきたいと思いました。

和田委員長 初任者研修についての可能性というのはいかがでしょうか。

教育センター所長 現在、初任者研修の回数は、かなり縮減し、リレー研修という形で、2年目研修、3年目研修に少し移行した部分もあり、これ以上回数を増やすことはちょっと厳しいと思います。

現在、夏休みの農山村留学に初任者は全員行き、その中で、各学校の発達障害の児童への先輩の指導対応を、見て学んでいる部分もあります。しかし、毎年事情により、長野の農山村留学に行けない初任者が実は何人かいて、その人たちには、ジョイントキャンプや、ハッピーキャンプに参加するような代替の措置として使っています。

養護教育センター所長 養護教育センターでも、今年度の専門研修として取り入れましたが、やはり所員はどうしても子どもにつくことになりますので、自由参観という形式になりました。

今年度は、参加者が2人でしたが、LD通級等の校長会を通じて、在籍している学校の先生方に自由に見に来てもらえるようにしていきたいと考えています。

和田委員長 センターでも工夫して周知に努め、先生方も苦労されているところもあると思いますので、発達障害の子どもに対しては、うまく連携を取り合ってもらいたいと思います。お願いします。

篠原委員 この3年生という枠ですが、やはり5年生での移動教室、6年生の農山村留学などのための練習ということでしょうか。

養護教育センター所長 もちろん、それ以外に通常の学習での状況、集団活動、学校での学習活動等に関連しての向上を目指しますが、一方で、特に違う場所に行ったときの子どもたちの環境が変化することによる弱さもありますので、養護教育センターでも、過去3年間くらいのハッピーキャンプに参加してきた子どもたちの移動教室や農山村留学での様子を追跡調査をしようと、今、項目を検討し、調査をする予定で準備しています。

篠原委員 では3年生で参加して、また4年生でも参加するという形をとることができるのですね。

養護教育センター所長 そうですね。あくまでも希望ですので、3年生で参加して、4年生も参加して、5年生では各学校での移動教室に参加している児童もいます。

篠原委員 わかりました。ありがとうございます。

和田委員長 ぜひ追跡調査もし、効果を測定していただきたいと思います。

志村教育長 特に宿泊や共同生活の部分については、いきなり5年生は無理だということがあり、できるだけ早く体験させておいたほうが良いということで、3・4年生で同じことをやらせておくということです。5年生は通常の学級の中で、各校の移動教室を活用してもらいたいと思っています。

お話があった初任者研修も確かに実施したいのですが、教員の多忙化に、ますます拍車をかけてしまうということがあり、見合わせています。

ただ、初任者の先生方は、まず初めての研修として、長柄の少年自然の家に宿泊体験します。子どもはいませんが、ここで現地のYMCAの職員との色々な交流体験が初任者なりにできるように、計画を立てて進めているわけです。

経験が深まるにつれて、やはり内容が毎年良くなってくるので、引き続きこういった部分について内容を重視させていくことを、

まず最優先で考えていきたいと思っています。

明石委員 今実施している初任者研修の時間数にプラスせよということではなく、今一度初任者研修の中身を全て見直していただきたいです。

力ある先生のソフトを若い先生方に伝えてもらえれば、いろんな問題が解決できるかと思い、多忙感は重々わかっていますから、余り増やしてはいけないのですが、体験的な研修は初任者には大事だからぜひ検討してほしいです。

篠原委員 先生、大学生はそのような体験をしているのですか。

明石委員 やっています。

篠原委員 そうなんですか。

志村教育長 ボランティアに入っている学生もそうです。

それから、引率職員には入っていないけれども、自分の学級にそのような児童がいるから、見に来るとい先生方も多くいます。授業が終わった後の4時過ぎに来たり、土日に来たり、時間を自分たちでつくることは幾らでも可能だと思います。

今、明石先生のお話を聞いて、確かに発達障害の指導においては、なかなか具体的に体験する機会というのはないですので、貴重な機会だと思います。少し研究したいと思います。

和田委員長 時間が限られているので、その中で何を優先的にやっていくかということを、いつも考え直していかななくてはならないと思います。

一点ちょっとお伺いしたいのですが、今後人数が増えてくることが予想されるので、ボランティアの確保、参加人数の制限等が課題となってくるとあるのですが、例えば、余りに人数が増えてくると、断らなくてはならないということが出てくるのではないのでしょうか。

その場合、大変なことになると思いますが、例えば、二手に分けて、少ない人数にして2回行うということは考えていますか。

養護教育センター所長 今のところ、日程的にかなりきついと思っています。先ほどもお話ししたように、発達障害の児童は、環境の変化や、気候の変化のようなものに対しても結構弱かったりすることもあります。

それから、指導員とボランティアが、ほとんど夜通し、交代でおむつを替えたり、決まった時間に起こしてという状況なので、極力今の状況で受け入れられるところまで受け入れつつ、希望者

が大幅に多い場合には、学年で制限するなどを検討しなければならないと考えています。

和田委員長 わかりました。やはりできるだけ希望する児童を行かせてあげたいですね。

養護教育センター所長 受け入れるような努力をしたいと思います。

報告事項(7) 千葉市科学フェスタ2013メインイベントの開催について

和田委員長 生涯学習振興課科学教育推進担当課長、報告をお願いします。

科学教育推進担当課長 報告事項(7)「千葉市科学フェスタ2013メインイベントの開催について」、報告します。

こちらに映像が映りますので、ご覧ください。

10月12、13日の2日間、きぼーる1階から、ビジネス支援センターを含めて、きぼーるを会場として、子どもから大人まで市民の皆様が気軽に科学技術に親しむことができる総合的な科学の祭典、千葉市科学フェスタのメインイベントを開催しました。

主催は、千葉市、千葉市教育委員会、千葉市科学館です。千葉市教育委員会としては、指導課、生涯学習振興課が科学フェスタの事務局の一員となっていますが、メインイベントでは千葉市教育委員会全体を挙げてフェスタを支えています。

メインイベントの主な内容ですが、市長の開幕宣言から始まり、開幕式終了後、総合展の科学部門において教育長賞・科学館賞に輝いた16人全員へ、教育長及び科学館長より表彰状が授与されました。

気軽に科学に親しむ、楽しいことができる科学体験ブースを初始め、じっくり科学に浸れる科学体験、実験、工作教室、大人向けの科学講座など、充実した科学イベントが実施されました。SSHの千葉市立千葉高等学校も、科学体験ブースへの出展等と、研究についてのパネル展示を行いました。また、ロボキャッチャーの操作体験も大変人気がありました。

特に科学体験ブースでは、千葉市の理科学系教職員で組織する学理の会や、理科教育サポーターの有志の集まりであるキッチンサイエンスなど、学校関係者も出展して、子どもたちを楽しませていました。

さらに、千葉市の算数・数学関係教職員で組織しているちば算数・数学を楽しむ会や、科学者育成プログラムで連携している千葉大学のサイエンススタジオCHIBAの野村研究室、加藤研究

室、東崎研究室の方々も、親子で科学に親しむブースを出展してくれました。

楽しかった、為になったという科学体験ブースを選ぶちばS Cグランプリでは、市民レベルで科学を楽しみ、学び、考え、活動の輪を広げる千葉サイエンスの会が第1位に選ばれ、表彰状を実行委員長が、トロフィーを教育長が授与しました。第2位は1票差で、千葉商業高等学校の情報処理部が受賞しています。

メインイベントの来場者数ですが、大変多くの来場者が訪れ、2日間で1万5,197人となりました。1日当たりになると、初年度が1,800人、2年目が5,600人、3年目が7,500人と、来場者は年々増え、昨年度比、36%増となっています。3年間、同時期に開催したこと、市政だより、チラシの児童生徒への個別配布、ホームページ、ツイッターなどを活用してお知らせしたことにより、秋休みは科学フェスタということが、学校にはかなり周知できたのではないかと思います。

昨年度3イベントだった、科学体験・実験・工作教室は、9イベントに増やしたところ、全ての教室は満席となり、多くの子どもたちがじつくりと科学に浸ることができました。千葉市教育センターの所長、指導主事の方々、千葉市の小・中学校関係者の市教研という団体の理科部会の先生方、あるいはソニーの科学教育研究会の協力や支援を得ることができました。

また、未来の科学者育成プログラムで講座を実施している東京ガス千葉支社や、あるいは放課後子ども教室で、講座を開いている蔵前理科教室にも、科学教室を開いていただきました。

今年度、初めて公式ガイドブックを発行しました。ねらいや、実験の仕方、つくり方、材料などを文章だけではなく、写真や図などで詳しく説明しているため、フェスタで体験したことを家庭、学校、あるいは学校行事などで生かせるような方向で振り返ることができるようになったと思います。

次に、フェスタの認知度の向上ということで、コマ大戦実行委員会という製造業の団体が初めて出展したり、ポリテクカレッジやポリテクセンター、あるいは群馬県教育向けの団体である科学講座研究会、あるいは京葉工業高等学校など多方面から新たに出展していただきました。こちらから依頼しなくても、相手方からの出展希望が増えてきたことは、非常に良いことだと思っています。

さらに、大人向けの講座の充実ということで、千葉大学のフロンティア医工学センターが、色々な医工学機器を持ってきて、機械の操作体験をしてくれたり、ミニ講座をしてくれたり、あるいは北澤東京都市大学学長がお話をしたりということで、今回は科学体験教室や、講演会の参加者数も非常に増えました。

また、科学館賞の作品発表会では、事前の相談を受けたり、事前のセミナーを実施したりしたことによって、非常に良い発表をしてくれました。細かい反省材料もたくさんありますが、この後、フェスタの事務局会議や実行委員会等でしっかり総括し、次年度につなげていきたいと思っています。

次年度の予定としては、10月11日（土）と12日（日）の秋休みに実施したいと思っています。ご期待ください。

篠原委員　今回も前年比36%増ということで、やはり周知の仕方がとても良かったのだと思います。

内容がとても充実していて、私たち大人も楽しめたフェスタでした。

少し気になったのは、アンケートのとり方が昨年度と余り変わらなかったことです。アンケートの中で発展的な意見があったり、アドバイスのような回答はあったのかということと、昨年度も和田委員長から話があったと思うのですが、どこの地域から来ているかという項目もあったほうが、どこにアピールをしたほうがいいのかという課題もわかるのではないかなと思います。

科学教育推進担当課長　本年度の結果については、事務局会議、実行委員会等に上がってきていけませんので、まだわからないのです。昨年度について申しますと、幾つか良い意見等がありましたので、それらを取り入れているつもりです。

また広報手段については、アンケートの中にどのような手段で知ったかという項目を設けたところ、世代によって違うのではないかがわかり、それをもとに、今年フェイスブック等を追加しました。

さらに、居住地の問題ですが、昨年度は市内・市外に分けてとっていましたが、市内・市外だけでは色々検討もできなかったもので、今年度は市内・市外を割愛してしまいました。次年度はやはり居住地とどのような関係があるかということを念頭に考慮したいと思っています。

ただ、昨年度アンケートを記入してくれた年齢が、小学生以下

の子どもたちが41%と、多分その親世代である30代が19%、40代が21%という結果で、一番私たちがターゲットにしなければいけない中学生・高校生等に記入してもらえませんでした。その世代に意見を求めるのは厳しいかと思いますが、まずアンケートの配布方法、回収方法について考えていきたいと思っています。

和田委員長 公式ガイドブックは販売しているのですか。

科学教育推進担当課長 きぼーる7階のミュージアムショップで200円で1年中販売していますので、よろしくお願いします。

和田委員長 200円で販売しているというのでは、アンケートに答えてくれたら、公式ガイドブックをあげるというのは、少々無理ですね。

科学教育推進担当課長 抽選では差し上げられます。

和田委員長 抽選で当たるということで回収率を上げると良いですね。

科学教育推進担当課長 わかりました。

和田委員長 アンケートに関連してですが、居住地に加え、誰と来たか、年齢層、さらに、大学生、高校生、中学生、小学生などの職業・属性も今後考えてほしいと思います。

内山委員 私も半日でしたが、目いっぱい参加して、楽しい時を過ごしました。小さい子どもから、私のような年齢まで、皆楽しめるような充実した、素晴らしい内容でしたね。ぜひ、これからも発展して行ってほしいと思います。

一つ聞きたいのですが、高校生の参加がありましたけれども、これは自主的な参加なのですか、それとも呼びかけがあったのですか。

科学教育推進担当課長 高校については、やはり中学生・高校生をターゲットにしたいと思っていますので、工業高校など色々な高校に、科学フェスタメインイベントに出展してみないかという話をして、去年から数校出展していて、少しずつですが増えている状況です。次年度もまた少しずつ増やしていければと思っています。

明石委員 感想と質問です。中身が良く、本当に良くやってくれていると思いました。ポリテクカレッジという、教育委員会の建物の隣にある、立派な短大や千葉大学のフロンティア医工学センターや教育学部、さらに群馬県の団体が参加してくれたというのは、うれしく思いました。

私が言いたいのは、市民のボランティアも含め、教育委員会が

所管する小・中・高以外の色々な団体が出展してくれた仕組みが、今後の千葉市の教育委員会の在り方に対する、非常に貴重なサンプルになると思うのです。

それで、質問ですが、平成23年、平成24年、平成25年と実施していますが、かかった費用はどのくらいなのでしょう。先生方が非常に苦労して頑張っているのに、やはりもう少し財政的な配慮がないのでは、市長部局にもっと予算化するなどの作戦を練ると良いのではないのでしょうか。そのためにも、この3年間で、予算は変わったのか。変わってなくても前年比36%増となるのかということも教えていただきたいです。

科学教育推進担当課長 市から出ている予算は、250万円から、300万円くらいです。市の予算の都合上シーリングがかかっていますので、少しずつ金額が下がっていますが、3年間、そのくらいの金額で、科学フェスタを実施しています。

明石委員 積算すると1,000万くらいほしいなどというような希望はありませんか。

生涯学習部長 いや、全体予算は250万円から300万円ではありません。

科学教育推進担当課長 JSTの先進的科学館連携事業として、支援金をいただいています。

生涯学習部長 支援金をいただいたり、科学館から支出したり、色々な方法をとって、費用を捻出しています。

このようなイベント等については、どうしても出展などで費用がかかってしまうのですが、できるだけ、私どもの手づくりのものにもっていきたいと思っていて、協賛金や、寄附金を募ったり、先ほどの今年200円で販売した公式ガイドブックの収入を充てたり、広告料をとったり、そういったものをこれから色々考えていこうとしています。

これは教育委員会だけではなく、市長部局の経済企画課も事務局の一員となっていますので、一緒にいろいろ考えています。

明石委員 わかりました。

和田委員長 では、来年は来場者数2万人を目指して、一致団結して頑張っていきたいと思います。

報告事項(8) 第58回千葉市社会教育功劳者顕彰について

和田委員長 生涯学習振興課長、報告をお願いします。

生涯学習振興課長 報告事項(8)「第58回千葉市社会教育功劳者顕彰について」、報告します。

この顕彰は、本市の社会教育の発展に尽力された個人・団体を顕彰し、日頃の優れた実践活動や学習成果を市民に広め、本市社会教育の一層の振興を図ろうとするもので、今年度は去る11月10日（日）に生涯学習センターにおいて執り行いました。

功労者の氏名及び功績概要等は、資料に記載したとおりで、今年度は67人、1団体となっています。

和田委員長 私から1点質問ですが、健全育成課で所管している青少年健全育成功労表彰との兼ね合いはどうなっているのでしょうか。成り立ちも色々あると思いますが、以前からある団体は、両方で表彰されていたり、もしくは新しくできた団体が、なかなか表彰されないことも起こってくるかと思うのですが、そのような見直しはされているのでしょうか。

生涯学習振興課長 委員長ご指摘の、様々な団体からの推薦という視点については、以前は団体推薦を原則としていましたが、平成22年度から選考基準の中に特別表彰を設け、特に顕著な活動や功績があった団体を表彰することにし、平成22年度に植草学園の高校生の読み聞かせサークルを表彰したという実績があります。

また、他の表彰との関係については、それぞれの顕彰、表彰の目的など制度の趣旨もあると思いますので、その辺、もう一度確認し、関係部署と協議をしていく必要があるのかと思います。

和田委員長 今後も検討をよろしくお願いいたします。

報告事項(9) まなびフェスタ2013の開催について

和田委員長 生涯学習振興課長、報告をお願いします。

生涯学習振興課長 報告事項(9)「まなびフェスタ2013の開催について」、報告します。

このフェスタは、日頃の学習活動の成果発表の場としてはもとより、相互学習、交流の場として、市民の生涯学習活動の普及・振興を図ることを目的に開催するもので、今年度は12月7日（土）、8日（日）の両日、例年と同じく生涯学習センターで開催します。

当日は、公募団体を始め、施設ボランティア、NPOなど60団体が各種体験教室や映画上映会、展示発表会など、子どもから大人まで楽しめる72事業を行います。

また、今年度の特別企画としまして、加藤登紀子さんの次女、Yaeさんによります、親子で楽しむオーガニックコンサートを開催します。

なお、このフェスタの広報については、市政だより、ホームページ等で行うとともに、リーフレットを市内全小学校４年生及び全ての公民館に配布しています。

内 山 委 員 私も毎年これを見に行くのですけれども、大変楽しいですね。何回目になりますかね。

生涯学習振興課長 今年は１３回目になります。

和 田 委 員 長 １点伺いたいのですが、周知方法の中で、市内の小学校４年生にチラシを配っているという説明がありましたが、小学校４年生を対象にしたのは、どうしてでしょうか。

生涯学習振興課長 こちらについては、本当は全校、全員が良いのですが、予算の都合等もありまして、兄弟関係等を考慮し、ほぼ中間ということで、４年生にしています。

和 田 委 員 長 ４年生に配ったので、４年生がたくさん来ているということなどはわかっていますか。

生涯学習振興課長 正確にはわかりません。

和 田 委 員 長 また事業が行われた後で、色々な報告をいただければと思います。

篠 原 委 員 基本的に、生涯学習ですので、幼稚園から大人までがメインということでしょうか。どこかを中心にたくさん来てもらいたいというようなところは特にありませんか。

生涯学習振興課長 はい。例えばテーマを決めたり、ターゲットを決めるという方法もあると思いますが、このまなびフェスタについては、継続的な活動の発表の場という趣旨を重視し、子どもから大人まで広く楽しんでいただけるというコンセプトで開催しています。

明 石 委 員 このまなびフェスタというのは、市の生涯学習センターの講座のお祭りなのですか。それとも、例えば、公民館が４７館あり、各館で公民館まつりが開催され、さらに区民まつりも開催されていますよね。色々な人の学習機会があるのですが、千葉市全体のお祭りの中での位置づけは、どうなっているのでしょうか。

生涯学習振興課長 千葉市の生涯学習に関するイベントの中において中心的な位置づけです。生涯学習センターが中心になり、関係機関、ボランティアの方などにも参加していただいて実施しています。今後、公民館や、他の施設との連携についても考えていかなければならないと思います。

明 石 委 員 私の意見ですが、例えば埼玉県は１１月を「いじめ撲滅強調月間」と定め、茨城県は、１１月を「いばらき教育月間」と定め

ていますが、茨城県の場合は、参加者の延べ数を見ると、1 か月間で計算上は約 2 9 0 万人の県民全員が参加しているのです。

要するに、人口 9 6 万人の都市で、単発ではなくて、1 か月間はこのまなびフェスタを実施し、そのメインとして、中核施設である生涯学習センターでのイベントを位置づけてくれると良いと思いました。

和田委員長 例えば、科学フェスタのようなイメージですね。

明石委員 そうです。

和田委員長 今後の取組みとして、いかがでしょう。

生涯学習振興課長 委員指摘の視点につきましても、今後検討します。

報告事項(10) 加曽利貝塚オリジナルキャラクターの募集と地元の盛り上げについて

和田委員長 文化財保護室長、報告をお願いします。

文化財保護室長 報告事項(10)「加曽利貝塚オリジナルキャラクターの募集と地元の盛り上げについて」、報告します。

初めに、加曽利貝塚オリジナルキャラクターの募集についてですが、趣旨は、貝塚として全国初の特別史跡指定を目指す加曽利貝塚の対外プロモーションのシンボル役となるキャラクターを募集するものです。

募集内容としては、応募作品の素材は自由ですが、加曽利貝塚をイメージさせるものであり、また図柄だけではなく、キャラクターの名前、性格、特徴、生い立ちなどのプロフィールもあわせて募集します。

応募資格は、プロ・アマ、年齢は問いません。

募集期間は、1 1 月 1 日から 1 2 月 1 5 日までとなっています。なお、昨日 1 9 日現在では、応募数 1 8 点です。今後、まだ増えていくと思われます。

なお、この募集については、1 0 月 2 4 日の市長の定例記者会見において発表したほか、千葉市ホームページ、加曽利貝塚博物館ホームページ及び市政だより 1 1 月 1 5 日号に掲載しました。

さらに、市内の小・中学校については、大募集と銘打ったチラシを、児童生徒全員ではありませんが、各学校に配布しました。ただ、部数については、先ほどのまなびフェスタではありませんが、全員に配れませんので、各学校にそれなりの数を配布しています。

応募いただいた作品は、審査員の意見を参考に最優秀作品 1 点、

それと優秀作品2点を決定します。また、副賞として、最優秀作品には賞金10万円、それと複製ですが、同好会の方が手づくりでつくられた土器等を考えています。優秀作品2点は賞金として1万円となっています。

この発表方法については、平成26年2月に授賞式とあわせて、市長記者発表で行うほか、市政だより、加曽利貝塚博物館のホームページに掲載する予定です。

なお、募集要項等の詳細については、資料の加曽利貝塚「オリジナルキャラクター」募集要項と、「加曽利貝塚について」をご参照ください。

次に、地元の盛り上げについてですが、特別史跡への昇格に向け、地元の方々への機運・関心を高めるため、様々な取組みを行っています。

主なものとして、「加曽利貝塚が特別史跡を目指している」旨を記載した横断幕を作成し、現在、加曽利貝塚博物館、並びに生涯学習センターに掲げています。

また、イベントのポスターや出張イベントで配布するチラシなどにも、「特別史跡を目指している」旨を記載し、PRしています。なお、今年度、園内、園外に設置予定の案内看板、と総合掲示看板にも、その旨を記載する予定です。

また、主要なイベントの実施時には、地元商店街にポスターの掲示を依頼しているほか、地元桜木小学校区の自治会に回覧板で周知を図っています。

また、若葉区役所と連携し、「若葉区が誇る加曽利貝塚一国の特別史跡に向けてー」をテーマとした巡回展を区役所のロビー、区内の市民センター、区内公民館で実施しています。

これらのほかに、現在、特別史跡指定に向け、埋蔵文化財調査センターで実施している、加曽利貝塚で掘った未整理の資料を、整理して報告書にまとめる再整理事業の成果を毎年2月に生涯学習センターで実施している千葉市遺跡発表会で発表するとともに、今まで再整理した資料等の展示も、併せて行う予定です。昨年度も初年の分も併せて、遺跡発表会で発表するとともに、展示しました。

これらの取組みにあたっては、オリジナルキャラクターが決定しましたら、活用していきたいと思っています。

明 石 委 員 先日の生徒会交流会では、貝塚中学校が先導をとり、51校

の中学校に公募するという、中学生らしい下からの動きがありました。

さらに小学校が大事かと思うのですが、千葉市教育研究会では教科以外の道徳や特別活動部会はあるのでしょうか。

指導課長 特別活動部会、総合的な学習の時間部会があります。

明石委員 本当は児童会があれば、児童会でそのような運動を起こしてくれて、113の小学校で機運を高めてほしいです。

社会科見学で加曽利貝塚に行った小学生の数が、余り増えてないというデータがありました。これを契機に、もう少し小学生たちに加曽利貝塚を知ってもらうという意味で、このキャラクターの公募も行っているというのと、奈良のせんとかんに値するほどの夢とロマンがあるのでないかと思います。縄文時代の夢が加曽利貝塚にあり、そのような夢は、小学生は色々な柔らかな発想でキャラクターをつくるかと思っています。

今回、プロはプロで良いのですが、小・中学生から集まってくれると、おもしろいと感じているので、余り上から目線をお願いしてはいけないのだけれども、もし特別活動部会があれば、そこで小学生に、どのようにPRしていこうかと話し合ってもらえるのではないのでしょうか。さらに、その際に、加曽利貝塚への社会科見学を検討してほしいという願いもあります。

和田委員長 可能性としては、いかがですか。

指導課長 小学校については、小学校3・4年生が使用する「わたしたちの千葉市」という社会科の副読本を作成しています。3年生の千葉市のまちの内容の中で、市内にこのような施設があるということで、加曽利貝塚の大きな写真が載っています。そして6年生の歴史の内容のときに、縄文時代の生活として取り扱っており、小学校では現在半分弱の55校が、加曽利貝塚へ社会科見学に行っています。

そのほかには、学校の特質に応じて、埋蔵文化財調査センターや、郷土博物館、遠くでは佐倉の歴史民族博物館など、各学校で訪問施設を決め、社会科見学を実施しています。

加曽利貝塚へ社会科見学に行く学校数が半分以上になるといえると思いますので、加曽利貝塚でどのような体験ができるのか、社会科見学に適する施設であるという資料を利用し、それぞれの機会に応じて、校長会等を通じて周知をしていきたいと思っています。

また、各学校でのキャラクターの募集については、生徒会と

少々違い、学校の了解がなければ、なかなかできません。社会科部会や、総合的な学習部会の中で、キャラクターについて、みんなで取り組もうということを検討していきたいと思います。

篠原委員 地元の盛り上げについてですが、昨年度から、加曽利貝塚のことについては、いろいろと私たちも教えていただき、すでに実施されていることもあり、余りにも何か周知されていないという感じが非常にありましたが、今回、特に縄文ムラまつりや、J Rや観光協会と連携して、駅からのハイキングを実施されたとあります。どのようなイベントで、どのぐらい集まったか教えていただけますか。

文化財保護室長 まず、縄文ムラまつりについて説明します。これは、毎年やっている行事で、主に11月に実施しています。今年も9日(土)、10日(日)の2日間にわたり、主に南貝塚にて、復元住居の説明、縄文時代にどのような暮らしをしていたかという説明のほかに、火おこし、アンギン編みや、貝を使ってアクセサリを作ったり、縄文時代に使われていた石皿で実際にドングリをつぶしてみたりするという体験等を行っています。

また、南貝塚の坂下にある旧大須賀家住宅では、普段土日も活動している加曽利貝塚土器づくりの会の方に協力していただき、実際に土器をつくって、それを見ていただくこともやっています。

なお今年度から、毎月第2日曜日に、縄文体験を実施しています。今年は来月で最後になりますが、もし都合がよろしければお越しください。

J Rと千葉県観光協会と連携した、駅からハイキングは昨年度も実施し、800人ぐらいの参加者が来ています。

来年の3月に、またJ Rと千葉県観光協会が連携し、駅からハイキングを実施する予定です。まだ日にち、詳細等は決まっていないのですが、J R都賀駅から歩き、加曽利貝塚と周辺の施設を回り、おおよそ8kmの距離を歩いて、また都賀駅へ戻ることになっています。

また、話が前後して申し訳ないのですが、縄文ムラまつりの参加者については、カウントしていません。実は、加曽利貝塚博物館の入館者は博物館の中に入られた方をカウントしています。昨年度は約1万8,000人の方が来館されていますが、実際来館された方が復元住居などの野外施設を見ていることは間違いのないと思っています。

中 野 委 員 今、発掘資料など見直しを進めていると聞きましたが、去年、全員で視察に伺った際、復元集落で倒れそうになっているものがありました。そのような集落を復元したり、もう一度建て直したり、博物館を、また新たに建て直すなど、計画はされているのでしょうか。

文化財保護室長 まず、復元住居については、来年度見直すように、現在予算を組んでいます。

さらに、博物館については、本館は昭和41年に建てられて、もう50年近く経ちますので、今年度耐震工事の実施設計を実施し、来年度、耐震工事の予算要求をしています。

また、耐震工事に伴い、建物内の柱等も工事するため、その中の展示ケース、展示スペースも動かさなくてはいけないので、耐震工事の後、新たに展示のリニューアルを行うことになると思っています。

中 野 委 員 せっかく縄文ムラまつりを実施しても、建物が倒れそうになっていると盛り上がらないのではないかと思います。

和田委員長 予算が厳しい中だとは思いますが、特別史跡を目指していただきたいと思います。

1点、キャラクターのことでお伺いしたいのですが、印刷物、案内看板など書いてありますが、展開として、着ぐるみを作る予定はありますか。

文化財保護室長 あります。着ぐるみと同じ衣装のポスターや、ロゴマークを作成するとともに、実際の着ぐるみについては、先ほど説明したイベント等市の行事等に出張していく考えでいます。

和田委員長 ぜひ、くまモン、ふなっしーをしのぐキャラクターになってもらいたいと思います。

報 告 第 2 号 県費負担教職員の人事について

和田委員長 教職員課長、報告をお願いします。

教職員課長 報告第2号「県費負担教職員の人事について」、千葉県教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき、教育長の臨時代理により処理しましたので、同条第2項の規定に基づき報告します。

千葉市立小谷小学校の教頭、廣澤文彦より、平成25年11月1日から平成26年3月31日まで医師の診断書に基づき休職願いが提出されましたので、平成25年11月1日付で、千葉県教育委員会指導課主任指導主事、神作稔を教頭として採用しました。

議案第34号 平成25年度末及び平成26年度公立学校職員人事異動方針について

和田委員長 教職員課長、説明をお願いします。

教職員課長 議案第34号「平成25年度末及び平成26年度公立学校職員人事異動方針について」、説明します。

本件は、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定により議決を求めるものです。本年度の異動方針は、昨年度の人事異動方針と大きな変更点はありませんが、一部、文言の修正の見直し等を図りました。

まず実施要項の適正配置についての表現ですが、「特に、小学校での教科指導や生徒指導の充実を図るため、中学校教員の小学校への計画交流をより積極的に行う」という一文を新たに追加しました。

次に、管理職等への登用についての表現ですが、「教諭」を「教員」に改めました。参考までに、教諭の場合は養護教諭、栄養教諭は含みません。教員は養護教諭、栄養教諭を含むので、門戸を広げた形になっております。

人事異動は、学校組織の活性化を図るとともに、各学校における教育活動の一層の充実・発展を図る基盤となる条件整備と考えていますので、学校や職員の実情を把握し、適正な配置に努めてまいります。

なお、今後の予定ですが、11月29日（金）に校長を対象とした異動方針説明会を開催した後、異動事務を進めていく予定です。

議案第35号 平成25年度補正予算について

委員長 学校施設課学校耐震化担当課長、説明をお願いします。

学校耐震化担当課長 議案第35号「平成25年度補正予算について」、説明します。

本議案は、平成25年度補正予算について、市長に意見を申し出るため、千葉市教育委員会組織規則第8条第6号の規定に基づき、議決を求めるものです。

補正理由ですが、平成26年度の実施計画に位置づけている学校の耐震補強工事等について、平成25年度の国の有利な財源を活用するため、予算措置を前倒しし、事業を迅速かつ円滑に遂行するものです。

補正予算額は、42億6,600万円で、財源は資料に記載のとおりです。

補正予算の内容ですが、校舎耐震補強事業については、補正額は33億9,100万円で32校の補強工事を、屋内運動場耐震補強事業については、補正額は7億6,500万円で、12校の補強工事を、エレベーター設置事業については、補正額は1億1,000万円で、校舎の耐震補強を行う学校のうち、エレベーターの設置を予定している2校において、あわせて工事を行うものです。

なお、いずれの事業も完了が翌年度となることから、全額について繰越明許費を設定するものです。

議案第36号 千葉市生涯学習センター設置管理条例等の一部改正について

委員長 生涯学習振興課長、説明をお願いします。

生涯学習振興課長 議案第36号「千葉市生涯学習センター設置管理条例等の一部改正について」、説明します。

議案第36号は、消費税法及び地方税法の一部改正に伴い、生涯学習センターの使用料等を改定するため、条例の一部を改正するよう市長に申し出ることについて、議決を求めるものです。

なお、生涯学習センター及び科学館については、指定管理施設であり、利用者の方が実際に払う金額については、条例の上限の範囲内で指定管理者が教育委員会の承認を得て定めることとなっていますので、改正後協議に入り、適正な対応を図っていきたいと考えています。

8 その他

(1)行事等視察について、内山委員及び篠原委員から所見が述べられた。

内山委員 先ほど次長のお話にもありましたが、やはり現場で、先生方、子どもたちの姿を目に見て、初めて実態がわかる気がします。やはり現場に出ていくことが大事だと思いました。

例えば、子どもたちの姿を見て、元気でやっている姿や、色々な感想に触れることができます。そのような視察をもっと増やしたいのですが、特別支援学校等については、なかなか機会がないので、視察できるよう、お願いしたいと思います。

篠原委員 ほぼ毎日のように学校へ視察に行くことができ、ありがとうございました。小学校、中学校で教室や廊下の壁に飾ってある展示物などを見ると、その学校の雰囲気が非常によくわかり、子どもたちを見るのも、とても参考になるのですが、展示物を利用した色々な指導の仕方を見ることができて、本当に楽しかったです。

これからもよろしく願いいたします。

(2) 中学校技術・家庭科全国大会について、和田委員長から所見が述べられた。

和田委員長 中学の技術・家庭の全国大会の全体会に参加した際、坂東眞理子先生の講演を伺いました。保護者の方にも案内を配布し、参加もあったということでしたが、なかなかあのような機会はないと思いますので、今後もぜひつくっていただいて、状況が許せば、地域の方や、保護者の方にも案内してほしいと思いました。

(3) サイエンスクラブアセンブリーについて、和田委員長から所見が述べられた。

和田委員長 サイエンスクラブアセンブリーへ視察に行き、その中で科学館の館長から、生徒が困ったときの相談相手として理科の教諭がいるのですが、自校の理科の先生も、もちろん色々な専門がありますから、高度な質問で解決できないことがある場合があります。その場合の市内の理科教諭のネットワークがあって、他校の先生にも聞くようなことができれば、より子どもたちの疑問が解消して、深い研究になるのではないかというようなお話がありましたので、考えていただきたいと思います。

先ほどもお話に出た J S T に関し、科学部活動振興プログラムという支援金があるという紹介も科学館の館長からありました。今年度は新宿中学校の科学部が獲得しているようなんですが、ぜひ市内の科学部には頑張ってチャレンジしてもらって、年間 30 万円ということでしたので、ぜひこの支援金を意義深く使ってもらいたいと思いました。

(4) 次回第 12 回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

9 閉会

和田委員長より閉会を宣言